大御番四番

四

内閣文庫 和書 類 三三五六九號 三九二冊 一五二函 一一之架

内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (293)
函號	152 121

共六

国立公文書館
National Archives of Japan

享保三戌年三月十六日

坪内平左衛門定経養子

享保元申年十二月六日家督

大御番本多因幡守組

土屋讃岐 松前伊豆守組

八百石 坪内平左衛門定員

享保四亥年十二月二條城の定番に

参る

享保六丑年十二月四日死

享保三戌年三月廿三日

鎌田藤左衛門清武養子
小普請 松平和泉守組

寶永二酉年十二月廿五日跡目

大御番松平周防守組 六百石 鎌田藤十郎清豊
後六百俵 改 藤左衛門

清豊ハ京大坂の勤番衛門より年若く
其后年月さしつかはす 所のこし
家臣と(?)廣く事より出て給ふ

享保十九寅年七月廿二日大御番組ニ

同年同月廿八日坂城の勤番衛門より年老六
御服白銀拾枚時服二を給ふ 何も
御恩篤ゆへ

元文二巳年夏二条城の宝蔵に入る
元文五申年秋坂城の縁側に入る
寛保三亥年夏京の宝蔵に入る
延享三寅年秋坂城の縁側に入る
延享四卯年十月廿五日死四十一歳

享保三戌年三月十六日
正徳四午年七月二日生
大御番本多因幡守組 三番 玉虫重右衛門豊茂
玉虫卯十郎武茂惣領
小普請大久保淡路守組
政
貞五郎
卯十郎
享保八卯年八月廿二日死二十五歳

享保三戌年三月十二日

小林長左衛門正忠養子

小普請大嶋肥前守組

正徳元卯年十二月十九日家督

大御番本多因幡守組　二百俵　小林八郎左衛門正章

正章午ノ二番大坂の宿直に参く

享保九辰年十二月十五日新御番　大屋栢安組

享保三戌年三月十二日

正徳元卯年十一月十二日跡目　田中兵庫信之養子
小普請松平但馬守組

大御番本多因幡守組　二百俵　田中主膳元陳

元陳実父大坂の銀座衆ニ而有る

享保八卯年四月廿三日御馬預

享保十一午年四月廿一日西城御馬預

享保十八丑年十二月廿六日常ニ

芳直として白銀拾枚被下之と録る見へる

年毎ニ加へ[illegible]

延享二丑年十一月十一日大御番本多九兵衛組と

離せらる元隆か息男甲斐守元喜堯隆
出奔せしは蟄居すへしとして
仰出されしを始末御旨にて不意
して八月十日給ふ所領の事
志まさるよしと申されし
かく　堯隆書を右達しよし也
延宝二寅年八月十三日板倉佐渡守
勝清相召の節に於て御役成
奪され蟄居すへしと仰出されし
永井監物に預けらる
同年十二月朔日蟄居をゆるさる
寛延三午年十二月八日死七十二歳

享保三戌年三月十六日
宝永六丑年九月晦日御目見
大御番大久保周防守組　大澤彦十郎基行養子　小普請大久保伊賀守組　二百俵　大澤源次郎基方
基方京大坂の役を勤めし事
二度
享保九辰年十二月廿三日新御番宮城七郎右衛門組

享保三戌年十二月十六日

稲富市郎右衛門忠房忰

宝永六丑年十二月廿三日御目見

小普請大久保淡路守組

大御番本多因幡守組　二百俵　稲富勘右衛門忠廣

忠廣弟大坂の[illegible]　[illegible]

享保十五戌年十二月七日死[illegible]

享保三戌年十二月廿日

大御番本多因幡守組　小普請大久保淡路守組　二百俵　石原小十郎

京大坂の商売に参る

享保三戌年三月十二日
中根六右衛門支配無足
小普請中川伊勢守組
元禄元辰年七月十二日誕生
大御番本多因幡守組 二百俵 中根平右衛門正長
正長ハ重之政の嫡之傳氏年寄く
享保六丑年三月廿日小石川築地の邸
類火によりかくをき
享保元辰年十二月十二日 居邸類火ふ
かゝる 同十六年辛亥 類火にかゝれり
金拾両を貸し賜る
宝暦七丑年十二月晦日老辞賜黄金二枚入山口氏邸にて死

享保四亥年十月十八日
澤次郎右衛門幸救惣領
享保二酉年八月二日跡目
小普請組伊丹兵左衛門支配
大御番松平因幡守組 三百石 澤勝之丞幸家
幸家二番大坂の御番にて年々
度々三ノ丸御番衆の其副など
勤む
延享元子年九月廿一日寄合入竹中周防守支配
明和八卯年三月廿六日致仕髪を
剃りて長休といふ

宝暦八寅年十二月廿三日死七十五歳

安永元辰年十二月廿四日死 八十二歳

享保四亥年十月十八日

荒尾平八郎成紀惣領
妻多賀信濃組同心宗家女子死

正徳五未年七月廿六日御目見

大番本多因幡守組

三百石 荒尾八三郎成精

内高俵

成精 京大坂の家芷にて

享保十七子年七月朔日死 二十九歳

享保四亥年十月十八日

元禄七戌年　月　日父治郎右衛門跡目弐百俵　長田治郎右衛門嫡孫　養祖
宝永二酉年七月十二日祖父跡目弐百俵　長田与三左衛門惣領
小普請組安房守支配

大御番本多周防守組　弐百俵　長田平十郎正光

正光事大坂の御番ニ而

延享四卯年四月廿六日死

享保四亥年十月廿八日

元禄十三辰年七月廿日跡目

石川半左衛門[illegible]

小普請組内藤采女支配

大御番本多因幡守組　三百俵　石川彦兵衛富

享保七寅年秋坂城の番請にある

享保十巳年十一月十三日市ヶ谷新本

村の郷[illegible]かつ[illegible]

享保十一午年十二月廿九日死

享保四亥年十月十八日

享保元申年十二月廿日家督

大御番本多因幡守組　三百俵　加藤長三郎定能

加藤金右衛門正利養子
小普請組細川讃岐守支配

享保七寅年秋坂城ゟ病気にて
しに病ひかく

享保八卯年七月廿日於大坂城在番死

享保八卯年二月十八日

鈴木九太夫 実長恭之子

御勘定奉行支配之役

大御番安部丹波守組 御書 置者 鈴木九太夫 西當

西當 京大坂の宿坐に参る

享保十四酉年十二月廿七日 辞入 建部民部少輔支配

享保十六亥年六月十七日死 八十九歳

享保九辰年十月九日

中根主右衛門安能惣領

小笠原信濃守組伊丹弥左衛門支配

享保七寅年十二月十二日家督

大御番永井播磨守組

五百石

八名九年

中根権六忠賢

忠賢儀家大坂の宮並以来二年

二ノ度

元文元辰年十月十二日新御番大久保佐渡守組

享保九辰年十月九日

東田孫三郎種次惣領

享保八卯年八月二日御目見

小普請組松野八郎兵衛支配

大御番永井播磨守組 罷在 東田喜三郎高種

高種事大坂の番立に参る事

度々

寛保元酉年九月廿二日大御番組入

寛保三亥年正月廿九日辞入大番

忠四郎 十七歳

同年　月　日死

享保九辰年十月九日

正徳三巳年十二月廿七日家知

大御番永井播磨守組　佐野庄三郎同心嫡男
小普請組内藤○○支配

三百石　佐野辰三郎自後
後三百俵

享保十巳年十二月廿五日家知年ゟ無ニ
不勤ニ而ニ八丁○○ニ入被成

享保十八丑年三月廿七日御奉行の時
山口伊豆守組ニ屬して歩行勤を
勤也右之通ニ依ておゐ

享保十七戌年七月十二日　新御番高力平八郎組

享保九辰年十月九日

荒井政之丞定勝老死

享保五子年十二月廿九日病死

書院廻青木右馬之丞

大御番永井備前守組　三百石　荒井政之助時春

享保十巳年夏二条城の留守に来り

享保十三申年秋大坂城の留守番に来りしに

享保十四酉年霜月廿日新番頭支配病死二十九歳

時春が髪を天王寺寺町風林

寺に送る

享保九辰年十月九日

宝永七寅年七月廿一日分知

松平播磨守正勝二男
小普請組松平甚九郎支配

大御番永井播磨守組　三百石　松平源七郎保勝
後　四郎兵衛

享保十巳年夏二条城の在番ニ
乱気ニ

享保十五戌年四月十三日西丸新御番神尾内記組

享保九辰年十一月九日

享保九辰年十一月廿日跡目

大御番永井播磨守組

豊後佐伯右馬泰亮養子

実者佐須瀬川備後守次男

三百石　豊後市郎右馬泰人

内二百俵

享保十三申年三月廿五日西城新組

新御番

太田平三郎組

享保九辰年十月九日

享保八卯年十月二日跡目

御書院番永井播磨守組

加茂長三郎定継養子
小普請組松野八郎兵衛支配

三百俵　加茂源次郎正原

享保十巳年夏二条城の在番にて参り
享保十三申年秋二条城の在番にて参りに
病ひにかゝく

享保十三申年十月廿二日於二条城在番死

正原の遺骸を大坂小橋の寿光寺へ送る

享保九辰年十月九日

千村忠右衛門信實見習當分急候

享保八卯年七月廿一日家督

小普請組松野八郎左衛門支配

大御番永井播磨守組　三百俵　千村平八郎義着

義着　京大坂の勤番ニ参ル事度々

元文三午年八月十日御廣敷番の頭

延享二丑年六月朔日死

享保九辰年十月九日　虎之次八郎信利養子

正徳三巳年三月廿四日跡目　小普請組能勢出雲守支配

大御番永井讃岐守組　三百俵　小虎之久八郎信安

信安事大坂の番之節病死

享保十五戌年四月十三日　新御番小笠原石見守組

享保九辰年十月九日

享保七寅年八月二日跡目

大番永井備前守組

小長谷佐右衛門時房無嗣

小普請組能勢出雲守支配

二百石
内五十俵
小長谷甚平正隆
改 伊左衛門

享保十乙巳年夏二丸御城の宿直に参るべきに病ひおこりて江戸に止まる

享保十一午年三月廿七日小金御狩の時森川下総守組に加はりて歩行勢子を勤む

享保十二未年三月十一日移入瀧川備後守支配

元文己未年十二月九日大御番杉本
和泉守組より入

享保九辰年十月九日
林六右衛門某惣領
小普請信濃組松平若九郎妹婿
大御番永井播磨守組二百俵林助右衛門某
改清之助
勘右衛門某 元京大坂の宗旨に承る

享保九辰年十月九日

享保六丑年八月二日添日

久保傳左衛門正秀惣領子

當番組伊丹兵左衛門支配

御書院番永井播磨守組　二百石　久保左平郎勝茂

享保十三申年二月十二日

小五郎君近習番

同日御役料二百俵被賜る

享保十五戌年十月十三日同し

御方の小性と成り

享保二十卯年十二月廿二日辞入寄合

㒵助支配

延享元子年正月廿七日
刑部卿宗尹主の近習番
延享二丑年十月廿四日死四十一歳

享保九辰年十月九日
正徳四午年十二月廿九日誕生
中根吉八郎 実ハ正英厄
実ハ書院組内之庄兵衛次男
大御番永井播磨守組 二百俵 中根内記正運
改 彦左衛門

正運 京大坂の為在番に参り
享保二十卯年三月十九日於大坂城在番死五十二歳
正運ヶ骸ハ大坂津中寺町正覚寺に
送る

享保十己年十月廿一日

大御番永井播磨守組 二百俵 小笠原玄蕃某
大御番酒井若狭守組中ニ而某忽爪

享保十五年三月廿七日大〻御将の時
森川下総守ヵ組ニ而連のく歩行
勢子之と務む

享保十四年　月　日　任新番　出奔

享保十三申年十二月二日

朝比奈孫三郎金正養子
小普請組小出伊織支配

享保九辰年十二月廿七日跡目

大御番永井播磨守組 高五百石 朝比奈孫助則増

享保十六亥年二月三日御番替御小性組渋谷
隠岐守組

享保十三申年三月二日

坂部三右衛門此者養子
小普請組酒井山城守支配

享保十三申年九月廿日済

大御番永井備前守組　跡目　坂部松之助　此儀
改
弟三右衛門

此儀ニ弟大坂の節出入無之

元文元辰年七月廿九日　西丸新御番　秦山内匠組

享保十三申年三月二日
廣戸勘右衛門惣領嫡孫養祖
廣戸半十郎西賀ノ悪爪
小普請組青木左衛門上総
同名 廣戸半十郎西状
享保二丙年十二月二日病月
大御番永井播磨守組
西状京大坂の宿出ニ参る事
旅く
寛保元酉年十二月十二日元方御金奉行
延享三寅年十二月七日大坂御破損奉行
延享四卯年正月廿八日御暇黄金
二枚時服二を賜る

安永元辰年四月三日冨吉兄御宝蔵番の頭
安永九子年四月十五日婿入中山勘解由支配
天明四辰年十二月廿七日死七十六歳

享保十三申年三月二日
享保十二未年二月八日跡目
大御番永井播磨守組
冨永治右衛門忠行嫡子
小普請組之冨[illegible]死
同 冨永喜兵衛忠雅
後 喜兵衛

忠雅京大坂の[illegible]事有之く
宝暦七丑年十二月三日大御番組頭
宝暦八寅年七月朔日[illegible]城の警衛よ
[illegible]は御眼自狼[illegible]肢[illegible]傷り
[illegible]の[illegible]
宝暦十辰年二月十四日麻布永坂乃
[illegible]居郷[illegible]

宝暦十一巳年度二条城の名代ニ而参る
明和元申年 秋坂城の在番ニ而参る
明和四亥年度二条城の名代ニ而参る
明和七寅年六月十二日死 享年七十四歳

享保十三申年十二月六日
宝永四亥年十二月廿一日生
大御番永井播磨守組 川田善兵衛良清由所
小普請組青木右京亮支配
三百俵 川田平兵衛良英
段
右之通
書
良英京大坂の御蔵米弁事ニ而候
寛保二戌年七月廿六日 御代官
良英御代官と被仰付御用筋之
勤め恩賜も而又御年貢
皆済の御事ニ 上納ニ候
明和己丑年九月廿日 松平右近将監
武元相伝仰付候ニ而

小野日向守一右衛門ニて御年貢金且
関東川々堤修復の事ニ付職罷
何是は御役を奉す九也 中書院ニ
つき閉門被仰付候 出役衆
若年寄衆死去ニ入
明和四亥年五月十三日閉門被免候也
安永二巳年閏三月廿二日死七十四歳

享保十三申年十二月二日
宝永五子年閏正月廿三日文昭院御作料齋
享保十七年十二月四日齋
大御番永井播磨守組　二百俵　石丸政右衛門有清
石丸源左衛門有勝嫡孫
石丸源右衛門有辰養子
小普請組山田切右衛門支配
同年秋信城の節ニ病死ニ而
享保十五戌年四月廿二日　新御番右京亮組

享保十三申年三月二日

大番寄合 清信出所
小普請組 松平孫治郎支配

元禄十三辰年十二月十八日跡目

大御番永井播磨守組三百俵 大番基之通義利

同年秋坂城の番相勤了

享保十六亥年三月二日辞入丹羽右馬頭支配

寛保二戌年十一月朔日死

享保十三申年三月二日

小笠原次右衛門養子西信忠辰

享保九辰年九月廿二日跡目

小笠原信濃組小普請伊織支配

大御番永井播磨守組　三百石　享保　小笠原右衛門政数

致

三右衛門

改水

享保十八丑年八月十二日新御番大久保佐三郎組

享保十三申年三月二日

牛奥八左衛門昌信二男実父
小普請組松野八郎左衛門支配

享保十巳年十月十二日御目見

大御番永井播磨守組 二百俵 牛奥大八郎喬昌

喬昌二十七歳の宮番に参る
享保十七子年十月十三日 大的六拾射
御覧の射手に列して 皆中 拾之八
時服二つ賜る
元文四未年二月十一日大的御覧の射手に
列して また御構なく 病ひありて
退きて終る

元文四未年十二月廿五日拝入 竹中周防守支配
明和五子年八月二日致仕 髪を剃りて
素高と云しと云
天明四辰年正月六日死 七十六歳

享保十三申年三月二日
御書院永井播磨守組 本勤
万年安右衛門頼忠惣領
小普請組酒井小十郎支配
二百俵 万年源左衛門頼次
父 安右衛門
頼次 弟大坂の富士に参る事云々
寛保二戌年十二月廿八日 拝入 長谷川久三郎支配
寛保三亥年四月三日致仕
明和七寅年四月廿三日死 八十七歳

国立公文書館
National Archives of Japan

享保十三申年二月十日
享保十七年十二月廿二日家督

大御番永井備後守組　原三郎左衛門親貞養子
小普請組久留島拾馬支配
二百俵　原勘兵衛親充
後　六左衛門

親充原来大坂の浪士の列に加りて来る
年十三歳

元文二巳年四月廿九日辞入竹中周防守支配
延享二丑年十二月廿六日死　年廿九歳

享保十五戌年十二月廿七日
服部采女左衛門養子
小普請組久留島数馬支配
享保廿卯年十一月十一日跡目
大御番酒井紀伊守組
六百石　服部久右衛門常晴
改　又左衛門

常晴ハ家之大祖の跡之儀より事なく
宝暦十一巳年夏二条城の留守にて明り
宝暦十二午年四月宗祖にたてまつるべきに
同月六日伏見殿の姫
田鶴宮なるを給ふ跡之儀と称むべき
位そと右近将監武元朝臣仰つたえの
よし　服部飛騨守長昭從同四月十七日

主藏阿部伊豫守正右相臣の郷にて
御本下　人足八人　馬四疋を賜り明の十日
田
鶴宮主部を發し後ひ附副ひ奉り
本營路を經て六月四日江府に着し
同月七日營中に召されて右近將監武元
相臣作を仰つけられ數の年に
労ありとて黄金拾枚時服二を賜り
六月朔日得隠居す
明和七庚寅年閏六月十七日老辭賜黄金二十枚入穀樂菩屋ゟ支配
安永二年年七月廿七日死七十五歳

享保十五庚戌年十二月廿七日
享保十六辛亥年六月四日跡目
大御番酒井紀伊守組
伊東伊藤政信無嗣
小普請組永見新右衛門支配
五百五十石　伊三郎　改定
後　伊藤
元文三戊午年六月廿八日御書院番小性組　松平采女正組
改定二条大坂の定番に参る事
三度

享保十五戌年十二月廿七日
享保九辰年十二月廿四日番入
大御番酒井紀伊守組
三井米三郎親ハ養子
小普請組建部兵部少輔支配
養父 高井隼之助晋忠
晋忠事大坂の在番にて病死年月く
寛延元辰年十二月廿四日大御番組入
寛延二巳年二月十三日御暇目録時服
二之御手二条城の在番にて参り川も
此御恩ニ預り
宝暦二申年秋二条城の在番にて参る
宝暦四戌年十月晦日死四十八歳

享保十五戌年十二月廿一日

享保十二未年十月四日御目見

武藤弥十郎秀仲養子

実ハ書院番組丹羽五左衛門二男

大御番酒井紀伊守組

当年十五 武藤弥之丞秀盈

秀盈ニ京大坂の勤ニ依テ参る

元文三午年六月廿二日御番替御書院番水野出羽守組

享保十五戌年十二月廿七日

享保十二未年十二月廿六日晦日

大御番酒井紀伊守組

大久保清三郎忠治惣領
小普請組青木経盛郷支配

三百五拾石

内百五十俵

大久保尚三郎忠喬

改

養父甚三郎
養父甚之丞

忠喬の家大坂の御陣より為年所く

元文二巳年夏二条城の勤番にて参り

附

中御門乃帝新御法会中泉涌寺乃

勤番を務む

宝暦元未年三月廿五日大御番組ニ

宝暦二申年七月朔日坂城乃

寛延年中ニは御服白銀拾枚時服二を
賜り其より在勤の度毎ニ御恩賜
有り
宝暦六丙子年夏二条城の詰番ニ参り
宝暦八戊寅年秋大坂城乃在番ニ参り
宝暦十一辛巳年夏二条城の詰番ニ参り
明和元甲申年秋大坂城の在番ニ参り
しに病ひありて
明和元甲申年 月 日於大坂城中病死年五十四歳
忠高ヵ願ニて大坂谷町八町目寺町
法妙寺ニ葬る

享保十五庚戌年十二月廿七日
享保十五戌年 月 日跡目
稲葉与一右衛門勝信惣領
小普請組曲淵甚左衛門支配
大御番酒井紀伊守組 三百石余 稲葉文右衛門敬勝
敬勝京大坂の在番ニ参り其年六度々
寛保三癸亥年十二月十日大御番組頭
同年同月十六日二条城在番ニ参り六
御服白銀拾枚時服二を賜り其より
京大坂ニ参り在番ニ
毎ニ御恩賜有り
明和七庚寅年閏六月廿七日死亡八十歳

享保十五戌年十二月廿七日

享保十五戌年六月六日家督

大御番酒井紀伊守組

荒川八右衛門重政養子

小普請組建部兵部少輔支配

三百石　荒川喜平衛親春

後　数馬

八左衛門

享保十六亥年　夏二条城の番に

参りも

享保十八丑年八月十二日　新御番松平主馬組

享保十五戌年十二月廿七日

糟谷求馬義長患死

享保十二未年七月十三日跡目

大御番酒井紀伊守組

小普請組丹羽五左衛門支配

三百石　糟谷弥之助義武

内百俵

享保十六亥年養子二十歳の節家来より参り

享保十七子年九月廿八日死　三十二歳

享保十五戌年十二月廿七日
享保六丑年八月二日跡目
大御番酒井紀伊守組
横山伊左衛門西喜忠次
小普請組青木右衛門上支配
三百俵　横山吉四郎正守
改　伊左衛門
元年京大坂の勤番被仰付候年十六歳
宝暦四戌年十二月十九日大御番組頭
宝暦二申年十二月廿二日拍撫御役に
年来御役依之白銀拾枚時服二被下之
是より以前も御恩被下之
宝暦八寅年秋拍撫の勤番被仰付
宝暦十一巳年夏京の勤番被仰付

明和元申年秋ゟ坂倉の隠居ニ而ある
明和四亥年夏ゟ二条城の番ニ而ある
明和五子年十二月十二日死七十才

享保十五戌年十二月廿七日
享保十二未年十二月四日婿
大坂番酒井紀伊守組
小長谷七郎左衛門時方惣領
小普請組永見新左衛門次男
三番組 小長谷七郎左衛門某
享保十八丑年九月十八日 元方御納戸

享保十五戌年十二月廿一日

享保十二未年十二月廿日御目見

大御番酒井紀伊守組

石川吉次郎正富養子
小普請組建部長次郎支配之跡

三百俵 石川庄兵衛包正

改 甚三郎
甚三郎

享保十六亥年裏二之丸殿の宮ニて不足
有之ニ付京大坂の寄附ニ付事二度

延享元子年十二月十二日 新御番仙石次兵衛組

享保十五戌年十二月十七日

享保十四酉年四月十七日家督

大村茂右衛門 二百五十石惣領

小普請伊丹組当分森三郎兵衛文說

大御番酒井紀伊守組 二百五十石 大村長之助高政

享保十六亥年夏二ノ丸城の節番ニ 入る

享保十八丑年十二月十六日 西丸 新御番神尾内記組

享保十五戌年十二月廿七日
青木久三郎信茂惣領
小普請組福嶋左兵衛支配
享保元申年十二月十五日初而
大御番酒井紀伊守組
二百俵　青木久三郎信也
改 清左衛門

信也ニ而大坂の宅地ヲ以来ル
享保十九寅年七月廿八日四ツ谷内藤宿
日根野権之助ヶ上ヶ地三百坪の地と
居郷の地ニ賜ル外ニ剰地ニ二百
八千坪を預けらる
元文二巳年四月十四日死 三十四歳

享保十五戌年十二月廿七日

正徳元卯年十二月廿二日跡目

大番酒井紀伊守組

許田久左衛門某惣領

中奥番組青木縫殿助支配

二百俵　許田源助某

後　久左衛門

元文二巳年四月十二日出奔

これによりて家たえて二百俵を

収らる

享保十五戌年十二月廿七日

享保四亥年十二月廿七日跡目

大御番酒井紀伊守組

甚目七右衛門西之丸奉行
小普請組福嶋左兵衛支配
二百俵　甚目伝右衛門長賢
改　弥兵衛

長賢　京大坂の御番衆に参り事
度々

元文四未年九月廿日死　三十一歳

享保十六亥年十二月廿一日

中ノ御代官佐々半左衛門長亮養子

大番酒井紀伊守組　百俵十口　佐々新十郎長旌

同日父かあと百俵十口を賜ふ　務めのうち八月俸十口も廩米に直し賜ひ五百俵を足しあふ俵を彩る

延享元子年八月十二日父失をゆるまて

あふ前の料りけきて遺跡を預り

長旌京大坂の分手傳ひ年々奉行

延享二丑年五月四日御代官

延享三丙寅年十二月十六日朝鮮の使
来る時の御用を入念勤しき
寛延元戊辰年十月十三日御用を
勤めしとて時服二を賜る
宝暦八戊寅年十二月四日御[illegible]奉行
明和八辛卯年四月十二日御[illegible]奉行
安永四乙未年三月廿二日辞入[illegible]山城守支配
安永五丙申年八月九日死七十五歳

享保十六辛亥年十二月廿三日
大坂酒井紀伊守組
新規[illegible]
二百俵 大澤伊織基季
後二百五十俵
基季子[illegible]大坂の[illegible]
宝暦五乙亥年五月七日跡目二百五十俵
是迄の二百俵六[illegible]奉る
安永三甲午年十二月廿二日老衰[illegible]入牧野備後守支配
安永六丁酉年八月十三日致仕[illegible]
安永七戊戌年十一月十九日死七十四歳

享保十六亥年十二月十五日

新番頭高力平八郎組金子市郎勝行惣領

大番頭酒井紀伊守組　二百俵　金倉八十之進勝清

後　久三郎

元文元辰年九月廿三日　部屋住

刑部卿宗尹主近習番

元文二年七月廿三日　拝入久田勝

教馬ト改

寛延元辰年十一月十三日　部屋住　大番

遠藤備前守組ヘ入

享保十六亥年十二月廿七日

大御番酒井紀伊守組　二百俵　田沢政之丞昌名

大御番板倉伊豫守組松下市郎昌雄惣領

改　五之丞

享保十七子年十二月九日　御役

刑部卿宗尹主近習番

同日御役料二百俵被下候

元文三午年四月十三日　御役御免　寄合入

竹中周防守支配

寛延元辰年十一月十二日御手当場所の

射芸訓して射形之被仰付明日廿二日

営中ニおゐて黄金之杖を給ふ
寛延三午年八月十日大御番水野
肥前守組ニ入

享保十六亥年十二月十五日
大御番酒井紀伊守組　大御番戸田右近将監組万之助長利養父
二百俵　松下万之助長房
改八左衛門
長房京大坂の役之儀ニ付年寄
三ヶ度
寛保二戌年八月七日転役新御番菅沼主膳正組

享保十九寅年六月十二日

名取喜右衛門長雅養子

小普請組建部兵部少輔支配

享保四亥年十二月二日御目見

大御番酒井紀伊守組

八百石　名取源之丞長恒

長恒　事大坂の勤番にて卒年

四拾八

延享四卯年四月七日死　四十七歳

享保十九寅年十一月十二日

金田小左衛門正英八男養子
小普請組大岩忠右衛門支配

享保十七子年三月二日跡目

大御番酒井紀伊守組　三百石　金田伊右衛門正寅

正寅儀大坂の宿ニ而午之年事ニ及

延享二丑年十一月廿三日　新御番仙石次左衛門組

享保十九寅年五月十二日
河野新右衛門通軒惣領
享保十七子年閏五月十三日家督
小普請組建部大蔵少輔支配
大御番酒井紀伊守組　養子　河野源三郎賀通
改　庄之丞

賀通義大坂の御番手ニ参り
寛保三亥年夏二条城の御番上に
参りつきニ病ひのり江府ニ上り
延享二丑年四月十三日　辞入竹中周防守支配
延享三寅年十月廿九日　大御番長田
備後守組ニ入

享保十九寅年五月十二日

享保十七子年九月晦日

大御番酒井紀伊守組 蜂屋九兵衛跡若菌養子 小普請組久留嶋数馬支配 同人儀 蜂屋金太郎成敗

成敗の實ハ父大學儀存生の節行
去し享保元子年八月廿九日相番
川名源蔵と云者に討れしうえ
當名を継して家絶たるを(?)は
親族今福刑部(?)儀の勝沢か方に
成敗を養ひて人々とあつて善菌
か出きるとなる

元文三午年十二月廿二日稗入丹後守屋鋪ニ而死
元文四未年六月三日致仕
同年六月廿二日髪を剃り宗帰と云
延享二丑年六月十八日死七十二歳

享保十九寅年六月十六日
享保十八丑年六月廿二日家督
大御番酒井紀伊守組
桜井宇右衛門信喬惣領
小普請組杉本安芸守組ニ而死
三番名 桜井伝次郎信秋
元文元辰年十二月廿三日 元方御納戸
同年秋坂城の諸儀ニ参り

享保十九寅年五月十二日

西尾五郎兵衛貞非忠代

享保十七子年閏五月十二日家督

小普請組大嶋忠四郎支配

大御番酒井紀伊守組　三百俵　西尾権之助定置

改　五郎兵衛

定是大御番ニ而十八年勤候ニ付

京大坂御番之節小中蔵として

金子弐十六両壱季五人代人

として金子弐両二十六両合せて

二十六両当職より金子而当座ニ付

元文五申年秋拝借の節之済口より金子

御返納申付候と暫免

宝暦六丙子年 太夫二条の跡式譲り受て
御名を手紀と改名
宝暦十二午年 太夫二条の跡式譲り受て
御名を手紀と改名
安永二癸巳年 太夫二条城へ上りて官位之
申し附 御目見之事 手紀と改名
安永九子年 太夫二条城へ上りて官位之
申し附 御名を手紀と改む
天明元丑年六月廿七日老龍篇ニ支人ニ枚入松平志摩守之死
天明六巳年十二月十四日死 七十九歳

享保十九寅年五月十六日
享保十五戌年六月六日御目
大坂酒井紀伊守組 西林中之丞 養子 小普請組 三百俵 西林 西秀
西秀ハ京大坂の ... 廿七歳
寛延三午年より宝暦二申年に
至る ... と称す
宝暦二申年三月廿三日下谷三味線堀
... 居郷の地を帰る
宝暦二申年七月廿九日死

享保十九寅年五月十六日

海野彩右衛門幸明養子

享保十七子年八月廿五日跡目

小普請組大屋甚助支配

大御番酒井紀伊守組二百俵　海野元次郎幸定

同年秋坂城の勤番ニ来り

享保二十卯年八月六日於大坂城在番死二十八歳

幸定ノ骸ヲ小長谷寺町

心眼寺ニ送ル

享保十九寅年六月十六日
徳川吉八郎惟光惣領
享保九辰年十一月四日跡目
小普請組建部民部少輔支配
大御番酒井紀伊守組　二百俵　徳川八三郎惟敬
改　市左衛門

惟敬　京大坂の御番にまかる事
御番仲人として元十九歳
延享二丑年二月廿九日築地の火災に
かゝり本所石原町の邸類焼す
切りも
宝暦九卯年十二月十二日十二もろ同

宿直かけちかきとて山吹の間にて
御備ゆ川て作之象ノ蓋冬拝と
賜る

明和三戌年十二月廿七日講入川口能登守支配
安永五申年十二月廿九日致仕
安永六酉年九月廿九日死 七十八歳

享保十九寅年五月十六日
享保十四酉年十二月廿二日家督
大河内酒井紀伊守組
鈴木十左衛門朝勝忠死
小普請佐組之内浦牧馬支配
二百俵 鈴木八左衛門朝正
改 専助
朝正 京大坂の宿直に参り
寛保三亥年正月十八日講入大久保忠四郎支配
明和六丑年二月十日死 六十五歳

享保十九寅年正月十六日

享保十六亥年八月廿日家督

大番酒井紀伊守組

大橋十之丞實子 母高井氏

小普請組三番見新右衛門 十死

二百俵 大橋小三郎重章

重章平坂城の邸ニ傷ヲ負フ事 一丁度

元文二巳年四月廿九日 拝入竹中周防守十ノ死

寶暦八寅年八月十四日死 六十四歳

元文元辰年十二月廿三日
諏訪紀伊守大膳門之寛嫡孫養子
諏訪紀伊守長右衛門ノ家惣領
小普請組杉本修理支配
享保十三申年十月九日家督
大御番酒井紀伊守組　六百二十石　諏訪紀彦三郎定敬
改　左三清

定敬　京大坂の宿直にて来り
寛延二巳五月廿七日　辞入　金田采女女　十九死
宝暦十二午年十二月廿九日致仕　如三童と云
安永元辰年十二月六日死

元文元辰年十二月廿二日

元文元辰年六月廿七日家督　佐々木左源郎一番養子

大御番酒井紀伊守組　小普請組竹中周防守支配

嫡孫　佐々木源八郎一陳　改 彦市郎

一陳　京大坂の宿直にて未ノ年――

彦々

宝暦十三未年十二月廿七日辞入　設楽吾左衛門支配

明和元申年八月十三日　致仕

同年十二月十三日死　享年[illegible]

元文元辰年十一月廿二日

正徳五未年六月二日 跡目

大御番酒井紀伊守組

服部九十郎貞仲惣領
小普請組久留清数馬支配

三男 服部九十郎貞鍾

貞鍾 京大坂の節御番ニ而来ル

延享元子年九月廿一日 養入 永井監物方ニ而死

宝暦五亥年九月六日 致仕

宝暦十二午年五月二日 死 享年七十二才

元文元辰年十二月廿二日　磯谷新三郎暉政惣領
享保十九寅年十二月七日御目見　小普請組久留島隆教馬守組
大御番酒井紀伊守組　二百俵　磯谷弥之助高政
改 新三郎

高政二字大坂の宿直にて事なく
宝暦四戌年三月四日清水御家老支配を
兼つき候へと承る
宝暦六子年六月十三日今度御米倉一を
減せしゝまゝ六御家老支配を免されき
是まて労わりとして時服二を賜る
宝暦七丑年八月十日清水御家老支配を

二六歳萬つき作と条り
明和七寅年八月十二日深川の大黒屋にて
縁町の郷敷出るよりし
安永元辰年十月三日死去子旧家

元文元辰年十二月廿三日
享保十四酉年七月廿日跡目
大御番酒井紀伊守組
花井政次郎時春養子
小普請組土屋喜三郎支配
三百石　花井丈十郎定親
後　次左衛門
寛保二戌年八月十九日
西丸新御番市川十次郎組
定親事大坂の番ニ而病ニて卒り

元文元辰年十二月廿三日

享保二十卯年十二月廿日嫡

大御番酒井紀伊守組

金田庄右衛門房定惣領子
小普請組杉浦出雲守支配

三百俵　金田清三郎房斗　廿二

段　左門

房斗ゟ祖父小普請房長享保二十
卯年八月十二日死去ニ付子庄左衛門
房定（先房斗ゟ父たりしニ）いまた遺跡を
継さる内房定九月廿四日ニ
死スれハ祖父ゟ遺跡を嫡孫なれハ
清三郎房斗ニ十二月二日遺ハ（嫡孫兼祖のうけおゝせ）す
加へ補る（父庄右衛門房定病ひ）

篤き子ゟハ父の遺跡を房井な
絶えん事を患を預ひしよしなと
中にて兎角離れは
勤衞とハ難
房井 京大阪の宿所を尋ゟ事有て

宝暦四戌年九月三日死六十六歳

元文元辰年十二月廿三日
享保十三申年十月九日家督
逸見次郎右衛門義孝 子
小普請組 竹中周防守支配
大御番酒井紀伊守組 二百五十俵 逸見次郎右衛門義茂
改 又右衛門 理左衛門
元文四未年六月十四日寄合入 竹中周防守支配
安永八亥年八月廿九日死 七十五歳

元文元辰年十二月十三日

享保二十卯年六月六日跡目

大御番酒井紀伊守組

今田市右衛門西房惣領

小普請組土屋喜助支配

二百石 金田市十郎西武

改忠右衛門

西武京大坂の役より系之事

度々

宝暦六子年七月晦日 婿入 戸川五左衛門次男

宝暦八寅年九月十八日致仕

明和元申年九月廿一日死七十一歳

元文元辰年十二月廿三日

大久保源之丞忠房惣領

小姓組信濃守組土屋忠四郎甥

享保十九寅年六月廿日家督

大御番酒井紀伊守組　二百石　大久保求馬忠満

後　源八郎

忠満京大坂の常番ニ不参事二度

寛保二戌年七月廿二日　元方御納戸

元文元辰年十二月廿二日

享保三戌年　月　日跡目

大御番酒井紀伊守組

森川六左衛門長恒惣領

小普請組杉本修理支配

二百俵　森川辰次郎長保

改　森川多膳

長保実父坂の富豊に年々年

二歳

寛保元酉年八月廿九日死

元文五申年十二月晦日

元文三午年十二月廿七日家督

大御番酒井紀伊守組

柳沢右近信孝惣領子

小普請組平井監物支配

八歳　柳沢八郎右衛門信武

信武ニ而大坂の宿直ニ而条々事

存候

宝暦七丑年七月六日死　五十五歳

元文五申年二月晦日　関主膳某惣領

元文四未年七月二日譴責　小普請組阿部伊織支配

大番酒井紀伊守組　十五石　関　九十郎某

改　内記

同年秋江戸に止まりて

寛保元酉年七月五日改易

同日評定所より召されて百姓の女子

切手をまいらせ女と立去せし事

不届至極の至りとて改易に處せらるゝ

も孫仰出されし十五石を収られて家絶ぬ

元文五申年二月晦日

元文四未年十二月廿九日

大御番酒井紀伊守組　本多数馬正行養子　小普請組阿部伊織支配　高二百石　本多源之丞　内二百俵

同年秋坂城の宿直ニ出ル

寛保三亥年夏二条城の警衛ニ出ル

〻〻ニ病ニかゝる

延享元子年四月十五日於二条城自害死二十三歳

西京より遺骸を本源寺ニ送る

元文五申年十二月晦日

元文四未年十二月廿七日病死

大御番酒井紀伊守組

大田左之助 西丸御書院番大田忠八郎子
小普請組大岡右四郎七病死

跡目 大田新三郎正純
改 平之助

正純京大坂の宿直小家了

延享元子年十二月十二日 新御番仙石次兵衛組

元文五申年二月晦日

元文三午年十二月廿日跡目

大番酒井紀伊守組

雨宮志摩守政長惣領
小普請組永井監物支配

昌儀 雨宮宇右衛門正央

正央 京大坂の御蔵並に而年々事尓勤く
宝暦十三未年五月十二日 書物奉行を
兼へき旨を蒙り
天明五巳年四月十日 其の如く書物奉行を
免され是迄之労に依て 時服二を
賜る

天明五巳年八月九日死 六十二歳

元文五申年二月晦日

元文三午年四月二日済

右者酒井紀伊守組

川勝若狭守与右衛門
小普請組永井監物支配

二百俵　川勝平八郎惣方

此方家大坂の郡寄場より来り事度之
宝暦十二午年十月十四日濃州三州国境
論所横入候御用ニ而罷越候処此の来年
四月十六日病死右近将監殿支配仰付候へ
らせ之者入候ニ付帳面ニ記置候処其より
来り事ニ而裁断し候之由　月　日
添帳ニ付

明和三戌年十一月廿九日小普請組ニ而死 組頭
安永六酉年六月十九日死 六十一歳

元文五申年二月晦日

享保十七子年十月二日跡目

大御番酒井紀伊守組

青木吉之丞加入西奉公

小普請組ニ而亥年二月十三日死

二百俵 青木孝之助 西之

西之丸大坂の宿直ニ而手足

延享三寅年八月十六日辞入ニ而何御勤ニ而死

明和元申年十一月十六日致仕

明和二酉年薙髪して久栄と云

明和七寅年九月十日死

元文五申年十二月晦日

享保十七子年六月廿七日家督

大御番酒井紀伊守組　二百石　曽根市三郎政次

曽根市之丞信次二男
小普請組大久保長門守支配

寛保二戌年八月　日聟入　松下嘉之丞支配

延享三寅年三月廿八日出奔

政次引請居候ハヽ家絶へ

二百石も収ル

元文五申年二月晦日

享保十九寅年十二月廿三日跡目

黒川与市盛固忠死

出雲信胤杉本吾郎左衛門ニテ死

大御番酒井紀伊守組　二百石　黒川数馬盛昭

明和二酉年十月十三日大御番組

盛昭ハ京大坂の宿直ハ多く勤く

明和四亥年三月朔日二条城乃

警衛ニ而鉄砲八挺自殺附ニ而

賜る

明和五子年十二月四日死

元文五申年十二月晦日

元文四未年十二月廿二日済

大御番酒井紀伊守組

曽雌伊左衛門定通惣領

小普請組長谷川内記組支配

二百石 曽雌伊左衛門定置

内百俵

改 清左衛門

定置京大坂江数度御使ニ参事度々

宝暦十一巳年六月廿五日死 六十二歳

寛保二戌年十二月二日
新御番高山安房組八木勘四郎養子
大御番有馬備後守組　二百俵　井上久三郎改甫
寛保三亥年夏二条城の御番相勤申候
延享三寅年秋坂城の御番相勤申候
延享四卯年十二月七日　部屋役　御小納戸
同年十二月十八日布衣を免さる
宝暦十辰年四月十二日
大御所様西丸に移らせらるゝによりて
御供して常になりき

宝暦十二巳年八月四日一統免せらる
其合ニ引すて是より之如く二百俵を備る
明和六丑年十二月廿四日依病死六十七歳

寛保二戌年十二月二日
大御番有馬備後守組 大御番堀式部少輔組今中務政朗養子
二百俵 浅井孫太郎英政 後二百六十七俵
英政ニ京大坂の宿直ニ参る事
四度
宝暦二申年十二月二日賜二百六十七俵
是より之二百俵ハ返し奉る
宝暦四戌年正月十七日死三十六歳

寛保二戌年十二月三日

大御番堀式部少輔組内記陳憲忠忰

大御番有馬備後守組　二百俵　深津内蔵助憲房

後二百五十俵

憲房ハ東ニ大坂の御番衆ニ八年之事

二亥

宝暦三酉年十二月十六日　跡目二百五十俵

是まての二百俵ハ返し上る

宝暦九卯年九月廿日死　二十九歳

寛保二戌年十二月三日
大御番酒井紀伊守組長谷川主馬忠秀惣領
大御番有馬備後守組 二百俵 山田多門安著
後二百五十石 改 伊左馬
安著事大坂の宿直人年々華而く
宝暦十二午年四月二日 跡目二百五十石
是迄の二百俵ハ返し上ける
宝暦十三未年二月五日 四ツ谷大番町の
大岡忠〔?〕而谷新町村〔?〕所の
卯 数〔?〕かる
明和八卯年十二月廿九日大御番組頭

明和七寅年七月朔日坂城の宮座に
参りしに白銀拾枚時服二を賜り
其後も御恩賜わり
安永二巳年夏二条城の宮座に
参り四月十八日
禁裏御花宿よりて
宮内卿殿よりの御使を勤免
安永五申年秋坂城の宮座に参る
たまたまに病ひおこり七月廿六日
京を立へきにかなたさま八日
延しけるに終に
安永五申年八月廿二日死 七十二歳

寛保二戌年十二月二日
大御番有馬備後守組
大御番岩下御勘定組主水房安恵尺
二百俵 星野吉之丞房信
後 二百石
後 主水 平篤
房信京大坂の勤番とも多く勤む事三度
寛延三午年六月二日病同二百石足との
二百俵返し奉る
寛延三午年十二月廿八日新御番弓矢根大百組

寛保二戌年十二月三日

大番青山織部正組与十郎法勝養子

大番有馬備後守組　二百俵　数坂茂助二条傳

後五百俵

二条傳奏丹波の馨清よりかね

免二十俵除

延享二丑年八月十二日叙文本郷庄八郎

改易に處せられしによりて廿日富士を

出むへしと仰出されし九月二日免さる

宝暦四戌年十二月廿二日為替　五百俵も

までの二百俵ハ返し奉る

明和七寅年六月廿日 大御番組 氏

同年七月朔日坂城の宿直に参りて事とし八
御暇白銀拾枚時服二を賜る是より
いつも此恩賜あり
安永二巳年夏二条城の警衛に参る
安永五申年秋坂城の警衛に参る
安永八亥年夏京の宿直に参る
天明三卯年秋坂城の護衛に参る
天明五巳年夏二条城の警衛に参りしに
病ひあつく明の
天明六午年三月二日於二条城卒 歳死七十四歳
京侍の寺を京下立売千本勝巖院に送る

寛保二戌年十二月二日

大御番有馬備後守組

大御番井上左京守組頭七郎兵衛基春養子

二百俵 後四百俵 豊嶋富三郎教泰 改金太郎

教泰は京大坂の警衛に参ること十六度
寛延二巳年夏二条城の宿直に参りし
御破損奉行を勤め十口を給る
宝暦二申年秋坂城の警衛に参る
御金奉行を勤む是より先
宝暦元未年九月十八日大的の射術御覧の
射手に列して時服二を給る

宝暦八寅年秋桜城の宮より移りて御次
奉行となりぬ　大日記と称す
宝暦九卯年十二月十日　宮近十七世の間
上くの勤めもはらにて黄金二枚を給り
宝暦十辰年五月七日新に四百俵を賜ふの
二百俵ハかへし奉る
宝暦十一巳年夏二条城の宮ゟ小ゟ移り
御殿様奉行となり務め七十日を給る
宝暦十三未年二月十日　市ヶ谷本村の
邸に於てかへる
明和四亥年夏二条城の宮ゟ小ゟ移り
大日記と称して御次奉行となりぬ

時至りて土御殿の者を抱へ
る事御制禁の所御城外に於て八
制外の事と心得小者を家来の内
にも抱し事不行届の事として
御暇を出され事を止めて明の寅年
三月十二日免さる
安永二巳年夏二条城の御局より移り
御下奉行となりぬ
安永八亥年夏二条城の宮ゟ移り
御具足奉行をつとむ
天明五巳年三月十日老躰賜黄金二枚に入官職久三郎と改
寛政五丑年三月十三日死八十一歳

寛保二戌年十二月三日

大御番塚田出羽守組右衛門正義養子
大御番有馬佐渡守組 二百俵 平岩亀右衛門親則
後 右衛門

親則 京大坂の御番にも参る事
度々

明和四子年十二月廿三日 任 新参 大御番組頭

明和七寅年七月朔日坂城の勤番に
参まして御服白銀十枚時服三を賜る
坂城にて病ひみて明る

明和八卯年八月四日 任 新参 大坂城番書死去享九案

親則ゟ髪を大坂谷町の長久寺に送る

寛保二戌年十二月三日

大御番有馬備後守組　二百俵　岩出伊右衛門信之

大御番堀田右京亮組主税信綱養子

信之京大坂の蔵番ゟ衆々筆頭

寛延三午年二条城の番衆ゟ衆へしに

此年十月廿八日伯父称次九平郎房平ゟ

罷科ニ依て御目通遠慮乃於代

命せられ　同十二月十日　二条城小山の人

十二月廿日免さる

宝暦元未年九月二日　任御蔵御代官

宝暦二申年十月武州長津田村
新田畑改検分被仰付
宝暦五亥年九月武州柿生村
新田検分御用被仰付候
同年十月東街道戸塚の駅助人
村方吟味御用被仰付候
宝暦六子年四月駿州久能山
正遷宮
外遷宮の御備御用被仰付候
宝暦七丑年十二月三州鳳来山仁王
門并橋架之御用被仰付候
同年九月より豆州駿州川々堤築

き御用被仰付候
同年十月駿府城西丸の石垣を
修覆いたし検分被仰付候
同年十一月より武州古川筋新田検分
御用被仰付候
宝暦八寅年十二月遠州相良の
領知引渡御用被仰付候
宝暦九卯年三月三州鳳来寺を
修覆いたし検分被仰付候
同年四月より武州今浦新開場
検分御用被仰付候
宝暦十一巳年四月三州矢作川通り

新関播磨守用人と命せらる
宝暦十二午年十二月 朝鮮使来るに
依て大坂加金谷の間往還御普請
の川筋奉行たるへきと命せらる
同年閏四月東街道分切添等御
役せらるに依て横目用人を命せ
らる
同年十二月三日罷職鄉村可被
御用人を命せらる
宝暦十三未年三月 三日 吉田橋を
役せられし内 船渡掛りと命せらる
六月 ふれ出来家 横目と命せらる

宝暦十三未年 月 日 隣首二百五十俵
是迄の二百俵八加へし奉る
明和三戌年八月廿七日 越後国にて死
亡の事に依て逼塞を命せらる
十二月十三日 免さる
明和七寅年 十二月七日 越後国の内
川除の事に依て御前へ出る事を
止らる 明和八卯年四月六日 免さる
安永九子年九月十九日死 七十歳

寛保二戌年十二月三日

大御番酒井紀伊守組若菅西勝兵衛跡

大御番有馬伯耆守組　二百俵　近藤定次郎　西年

後二百石　後　雪之丞

西年　京大坂の　御番に参る事

三度

延享四卯年九月四日御加増二百石是迄の

二百俵ハ返し上ル

宝暦四戌年十月廿九日元方御納戸

延享二丑年六月廿三日

服部一平保和惣領
小普請組大岡右衛門支配

寛保二戌年十二月二日跡目

大御番有馬備後守組　壬戌　服部式部保春

段　一番在ヘ

延享三寅年秋坂城の節ニ清ニ来る

明の卯年より御茶壷の指副ヘと

勤む

寛延二巳年夏二条城の節番ニ来る

残り役ヘと勤免

宝暦二申年秋坂城の節番ニ来る

御破損奉行ヘと勤む

宝暦六子年夏二条城の在番にあたり
御役を勤め
宝暦八寅年秋大坂城の在番にあたり
御役を勤め
宝暦十一巳年夏二条城の在番にあたり
不快にて勤めず
明和元申年大坂城の在番にあたり翌の
酉年までの間御鉄炮組の指副を
勤めぬ
明和四亥年夏二条城の在番にあたり
御役を勤めぬ
明和七寅年秋大坂城の在番にあたり
御役より御破損奉行をも勤む
安永二巳年夏二条城の在番にあたり
御役を勤め
安永五申年秋大坂城の在番にあたり
御破損奉行を勤め
安永八亥年夏二条城の在番にあたり
御鉄炮奉行を勤め
天明三卯年秋大坂城の在番にあたり
御弓組の指副を勤め
天明五巳年夏二条城の在番にあたり
御弓組の指副を勤め保春京大坂
在番の列にあたる事凡二十三度ばかりして

寛政三亥年二月十一日老辞賜養老金二枚入南部主税支配
寛政六寅年二月廿二日死七十五歳

延享二丑年六月廿二日
村上左馬清胤養子
小普請組七条平三郎支配
寛保三亥年七月十六日家督
大御番有馬備後守組　十二石　村上左馬清紀
阪　修理
平左衛門
寛延元辰年十一月廿一日辞入普請由七左衛門支配
宝暦六子年九月廿日致仕髪を剃りて
退世しし云
安永八亥年六月十二日死

延享二丑年六月廿三日

赤井七左衛門文澤幸二男初名
小普請組内藤十次郎支配

寛保二戌年七月廿六日家督

大御番有馬備後守組　初名泰来　赤井亮之丞泰幸

泰幸二男大坂の番士に移る事
有之く

宝暦九卯年十二月十四日十七ろ同
番士よりの勤めあれハとて黄金
二枚を賜る

明和元申年八月三日死　六十八歳

延享二丑年二月廿三日

中沢新左衛門達尋養子
実ハ岩倉組永井監物支配

享保七寅年十二月十二日家督

大御番有馬伊豫守組　寛名　中沢左京梓長
後　源助

梓長京大坂の御番衆ニ而来年
可罷越旨被仰渡候処病気ニ付代人差出候
宝暦三酉年十二月金拾両被下置候
暇乞

宝暦七丑年十二月廿六日辞入横山内記支配
明和六丑年十月九日西丸御腰物方

延享二乙丑年十二月廿三日
享保九甲辰年五月四日御目見
大御番有馬備後守組　養子　大久保三郎右衛門忠孝
大久保幸三郎忠常惣領
小普請組同役十次郎七死

忠孝京大坂の御番ニ而年々年十七度
宝暦三酉年千石以下江金貸候付
金三十両をかし候る
宝暦九卯年十二月十一日十ケ年廿二ケ間
御番上の勤方をはげみて黄金一枚被下之

宝暦十辰年十月五日死　四十三歳

延享二丑年六月廿三日

大御番有馬備後守組 御番入

加茂平左衛門正義末子
小普請組戸川内蔵助支配

曽右 加茂新蔵正方

改 常刀

延享三寅年 秋於城の落馬より死る

寛延元辰年九月六日 新御番加茂左兵衛組

延享二丑年六月廿二日

田邊三宥安蔵養子
小普請組竹中周防守支配
享保十九寅年十二月七日跡目
大御番有馬備後守組
二百俵 田邊三郎右衛門良親
内七十俵
改三七郎

延享三寅年秋坂城の諸儀ニ参り

寛延元辰年三月廿四日死 三十一歳

延享二丑年六月廿三日

寛保二戌年十二月廿六日済

大御番有馬佐渡守組　二百五十石　内五十俵

河内新左衛門父周蔵養子

小普請組松下嘉兵衛支配

河内左京久勝

改 新隼

延享三寅年秋坂城の諸場より帰る

寛延元辰年十二月廿九日 婿入金田采女女子死

明和四亥年九月廿九日死 六十八歳

延享二丑年六月廿三日　大岳甚之丞義利嫡子
小笠原信濃組永井監物支配
寛保三亥年十二月十五日跡目
大御番有馬佐渡守組　二百俵　大岳主殿義居
改　孫右衛門
義居京大坂の宗匠にて有る
宝暦元未年九月十九日辞入寺多大岳甚之丞死
明和七寅年四月廿二日数仕秀残しと云
安永六酉年七月十四日死六十一歳

延享二丑年六月廿二日

石毛主膳康桓出羽守

寛保三亥年十一月十二日跡目

小普請組長谷川久三郎支配

大御番有馬備後守組　二百俵　石巻善兵衛正道

後　三左衛門

正道京大坂の銀座御用ニ付参ル

宝暦四戌年六月十七日御勝手方

延享二丑年六月廿三日
寛保三亥年四月三日家督
万年安右馬頼次惣領
小普請組長谷川久三郎支配
大御番有馬備後守組 二百俵 万年六三郎頼豊

延享三寅年四月廿九日
右馬督殿迄習書
同日御役料二百俵と端る
宝暦元未年六月廿五日御腰物方

寛延元辰年十二月廿二日

寛延元辰年四月二日跡目　名取源五郎長恒養子
小普請組松平因幡守支配

大御番有馬備後守組　八百石　名取源五郎信富
改　平左衛門

信富　家来大坂の御番に参る事
度々
宝暦九卯年十二月十三日十三をとり同
上方勢めあれハこそ山吹の間より
列居して御褒賞行けて手当き
候ことを以り　黄金一枚を賜る

明和七寅年閏六月廿日大御番組に入
同年七月朔日於御城の御座の間におゐて
御暇白銀拾枚時服二つを賜る是より
以下も此恩賜なし
安永二巳年夏二条城の在番に赴く
安永五申年秋大坂城の在番に赴く
安永八亥年夏二条城の在番に赴く
天明元丑年五月十二日西城御広敷御用人
同年閏五月十八日
若君の御方に属せらる
同年十二月廿六日布衣を免さる
天明六午年閏十月廿日御本丸に遷る
天明七未年十二月十三日営中にて召されて
御役を免さる阿部伊勢守正倫
朝臣仰を伝へらる寄合に列す
寛政三亥年七月廿四日死 年六十六歳

寛延元辰年十二月廿日

寛保三癸亥年閏四月二日済

柘植十兵衛昌房惣領

小普請組松下十兵衛支配

御書有馬佐渡守組　諱　柘植松之丞政房

政房二歳の節十兵衛より家督被下

明和元申年秋培樹の節十兵衛より養子

明の年宿立ちて御城へ出る

依日見分ありていかなる事を致し候

明和二酉年八月十日出奔

政房の跡断絶して家へは

五百石を収らる

寛延元辰年十二月五日

横山伊兵衛之御書出有之無候

元文二巳年八月十一日済

山岸信迪書付同年内家督之砌

右御書有馬備後守殿　罷有　横山亀吉宗

段　嘉膺

宝暦二申年七月廿日新御書右同豊前守殿

寛延元辰年十二月廿二日　門宗御右馬　西治兵所

寛延元辰年十二月三日家督　出雲守信組　當田七左衛門　十五歳

大御番有馬備後守組　置名　門宗御之進　要

内言儀

寳暦元未年六月十八日西丸新御番鎮浩七左衛門組

寛延元辰年十二月廿二日　吉田左仲順成養子

延享二乙丑年十月二日跡目　小普請組松下志加賀守支配

大御番有馬佐渡守組三百俵　吉田新八郎正英

宝暦二申年四月六日新御番石川豊前守組

寛延元辰年十二月廿日　本多名府利国養子
実本多信迥五男八郎右衛門ト號
延享三寅年三月廿日跡
大御番有馬備後守組　三番　本多松助利秋
利安兄安頼の家督不為弟事三十歳
宝暦八寅年八月廿九日死　三十歳

寛延元辰年十二月十五日

寛延元辰年十二月三日家督　佐橋主馬佐脩養子

書院番組竹中周防守支配

大御番有馬備後守組　二百五十石　佐橋長助佐富

改　源右衛門

佐當二字坂の字當ニ付改候事

改く

明和二酉年十二月十八日婿入松平茂九郎方也

天明七未年十二月十九日死　八十一歳

寛延元辰年十二月廿二日　跡 鈴木兵八郎 西丸上番ゟ子
延享二丑年九月廿八日跡目　小普請組川勝左京亮支配
大御番有馬備後守組 三百俵 鈴木勇次郎雅武
雅武 実ハ大坂の宿番ニ参り
宝暦七丑年七月廿八日御番入 酒田左兵衛支配
明和六丑年十二月十六日死 四十歳

寛延元辰年十二月廿二日

寛延元辰年四月二日番入

大御番有馬佐渡守組　小長谷伊勢守正隆養子　小普請信組大岡忠四郎支配　二百五十石　小長谷織部正武　内五十俵

正武京大坂の富士見へ参り

宝暦四戌年二月九日西丸新御番高井飛騨守組

寛延元辰年十二月廿三日

寛延元戊辰年十二月二十日家督

右御書有馬備後守殿

横山西市右衛門一成養子
小普請組竹中周防守支配

二百石余儀　横山新助一友

改　五郎右衛門

一友義大坂の留守居より年々参る

宝暦七丁丑年十二月十三日大坂町奉行

宝暦八寅年二月十五日御勘定令

一時服二を得り　旦今年より出役

被

賞し給ふ

明和元申年　月　日立戻来て

浮偶手分青をと触る

同年十一月三日御浜御殿目録拝領被仰付時服
二ツ拝領紗綾被下之
明和二酉年十一月二日辞入設楽甚三郎支配
明和八卯年五月九日死五十七歳

寛延元辰年十二月廿二日
延享二丑年十月廿九日跡目
大御番有馬備後守組　平野兵四郎三男養子
小普請組大屋忠四郎支配
二百俵　平野久右衛門徳堯
徳堯未大坂の御番に参り候年
四歳
宝暦十三未年七月十七日辞入小笠原駿河守支配
安永八亥年十二月三日致仕髪を剃りて
栄寿と云
寛政五丑年十二月十八日死七十七歳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan